



4/4(木) 5(金) 6(土) 7(日) GIII 開催 デイ 川崎スポーツ

## レース展望

4月4日からの川崎競輪は桜花賞・海老澤清杯として行われるGIII。昨年度は改修工事の影響もあり今年1月に開催されたばかりの記念競輪だが、今年度は例年通りの4月開催に戻る形となる。1月は郡司浩平の連覇で幕を閉じたが、更なる難敵も揃い白熱したレースが展開されそう。

南関東は地元を中心とした強力なメンバーが揃う。もちろん主役は郡司浩平(神奈川99期)で、この開催の連覇が懸る。いまや強力な相棒となった北井佑季(神奈川119期)が参戦するのは好材料。他にも地元記念制覇を経験している小原太樹(神奈川95

期)や、南関東屈指のメーカー内藤秀久(神奈川89期)、ホームバンクの強力機動型である青野将大(神奈川117期)や自力基本の総力戦で挑む佐々木真也(神奈川117期)らが揃う。スピード抜群の岩本俊介(千葉94期)も地元勢を盛り立てる。北日本は高い機動力を持つ新山響平(青森107期)にマーク技術高い佐藤慎太郎(福島78期)が続くS班コンビが強力。関東はS班の眞杉匠(栃木113期)の奮闘が鍵を握る。中部・近畿地区は強力。ダービー王山口拳矢(岐阜117期)と力を付けている志田龍星(岐阜119期)の若い岐阜コンビが中部をけん引。そこに追加参戦

となったベテラン浅井康(三重・90期)が加わり、現在の中部地区最高の布陣となった。近畿からは最強のオールラウンダー古性優作(大阪100期)が参加。機動力高い寺崎浩平(福井117期)や自在な山田久徳(京都93期)らと共に強力なラインを形成する。中四国勢は手薄ながら、取島雄吾(岡山107期)や松本貴治(愛媛111期)は混戦時の一発に魅力十分。九州勢は嘉永泰斗(熊本113期)を筆頭に伊藤旭(熊本117期)、林大悟(福岡109期)らの若い力の頑張り次第で浮上の目は十分にありそう。

連覇狙う地元郡司に難敵揃う

S級 主力選手



**郡司浩平** 神奈川 99期

今年はS班から陥落してしまった郡司浩平だが、早々に全日本選抜を制しGP出場を決めた。1月の地元記念も制しているし、巻き返しの1年で好スタートを切っている。連覇中のこの地元記念も譲れない。誰よりも強い気持ちで連覇継続を狙いに行くことだろう。

S級 主力選手



**北井佑季** 神奈川 119期

元Jリーガーから輪界入りし、徹底先行で特別競輪でも優出を果すなど、今や先行日本一の称号を手につつつある地元屈指の機動型。前受けに出れば赤板からの2周突張り先行を敢行して、次々に襲い掛かる別線勢をことごとく粉碎。その走りは連日見逃させない。

S級 主力選手



**古性優作** 大阪 100期

数々のタイトルを手に入れている古性優作が登場。連覇中の郡司にとっては、更なる難敵が現れた形となる。自力だけでも十分に通用する古性は、技ありの走りもこなせる最強のオールラウンダー。勝負所での確な判断を下せるのが強みで、連日車券の軸となる一車。

S級 注目選手

**眞杉匠** 栃木 113期



今年はやや出遅れてしまった眞杉匠だが、タイトルホルダーとして新たなスタートを切った。関東の若きエースとして強い気持ちでレースに挑む。何と云ってもしっかりと長い距離を踏める先行が魅力で、S班が多く参戦する今開催も攻めの走りを見せてくれるはず。

S級 注目選手

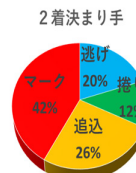
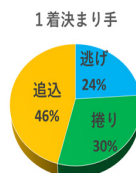
**寺崎浩平** 福井 117期



初の早期卒業生として117期でデビューした寺崎浩平。高い機動力を生かしてデビュー最速でS級優勝を果たすなど、常に注目される存在。昨年はナショナルチームを引退して、今年は競輪に専念。レースの経験値を増やしていけば、更なる進化を遂げることも十分だ。

### 川崎競輪場バンクガイド (2023年10~12月データ)

1年の改修工事を経て、昨年10月からリニューアルした川崎バンク。12月まで363レース(ガールズを含む)を終えた段階の1・2着の決まり手データは表の通り。基本的に構造は旧バンクを踏襲したもので、逃げ・捲り・差し・マークについて、それぞれのパーセンテージは以前と変わりはない。ただし1着に限って言えば、逃げ・捲りの決まり手が54%と過半数越えて、自力型のアタマから組み立てていく車券戦術が可能だろう。川崎名物イエローライン付近の強襲コースは、バンク改修により最終4コーナー走路をスムーズに回ってくるようになり、前団選手の失速が少なくなったため、今のところは出現率がそれほど高くない印象だ。



競輪は適度に楽しみましょう。車券の購入は20歳になってから。

【発行】川崎競輪 【監修】川崎サイクル